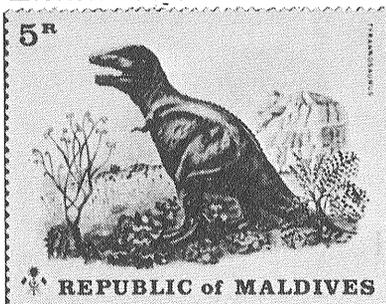
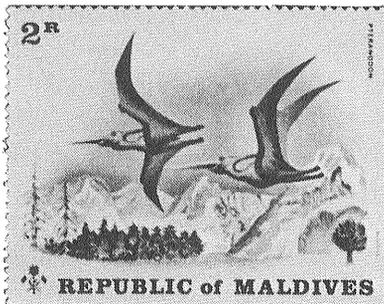
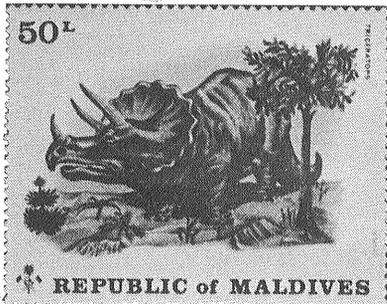
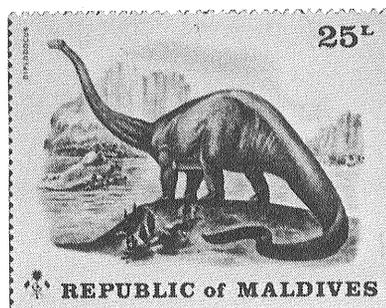
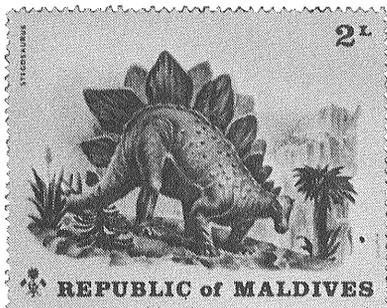


地学と切手



マルジブ共和国の  
爬虫類切手

P. Q.

マルジブ共和国は印度洋の北部にある数コの島からなる独立国で人口は約10万である。1645年にオランダの植民地だったが1887年イギリス保護領となった。800年以上続いたサルタンの支配下であり1953年に共和国となって独立したが54年にはサルタンが復活した。切手は1906年からマルジブ諸島の名の下に発行されているが1969年からマルジブ共和国の名に変更しているのでこの年にまた共和国にもどったのであろう。切手は1972年4月に発行されたがこの国と爬虫類化石との関係については不明である。



2L:ステゴサウルス (*Stegosaurus*) 剣竜の一種 ジュラ紀後期 体長4~9m 体高1.5m 体重2t. 四脚歩行の中型恐竜で頭は身体にくらべて小さい。背中に沿って三角の板が交互に配列し尾の先には4つのスパイクがあった。腰には脳の20倍の神経腔があつたのでステゴサウルスは2組の脳を持った動物という物語りがあつた。湖や沼辺の岸をのろのろ移動し水けの多い植物を食べた。

7L:エダオサウルス (*Edaphosaurus*) 竜盤目 石炭紀後期~二疊紀後期 体長約3m. 長く上方にのびた椎骨の突起を支えにして帆をかけたように皮膚がかかっており体温調節用のラジエーターのような働きをしたろうと想像されている。草食で鱗木や羊歯の生えている所に住んでいた。

25L:ディプロドクス (*Diplodocus*) 竜盤目 ジュラ紀後期 体長27m 体高4m. 陸上よりも水中の生活に適しており頭が水上に出てさえいると身体が水中にいてもよかつた。草食で浅い潟のどかな水中で体重を軽くして快適にくらしていた。

50L:トリケラトプス (*Triceratops*) 鳥盤目 白亜紀後期 体長6~9m 体重8.5t. 目の上に左右1本ずつ鼻の上にも短く太い角を1本持っていた。首の筋肉が強く頭を下げて突進したのだろう。草食であるが当時はティラノザウルスが最大の強敵だった。

2R:テラノドン (*Pteranodon*) 翼竜目 白亜紀後期 翼を広げると幅8m. 翼手竜。手の4番目の指がすごく伸びて皮の翼が張られていた。くちばしには歯がなく魚や貝を食べたのだろう。陸地から100kmも海上を遠征出来たろうといわれる。

5R:ティラノサウルス (*Tyrannosaurus*) 竜盤目 白亜紀後期 体長15m 体高6m 体重7t 肉食。暴君竜の意味でかって陸上に存在したもつとも凶暴の肉食動物。前肢が退化しており1mもの頭に広い口があり三日月刀の形の鋭い歯と尾が有力な武器だったのだろう。

別に2Lと5Rの小型シートも発行されている。